

板野中学校 同和教育だより

MY SKY No. 14

マイ・スカイ

2000年11月7日(毎月第1・第3火曜日きまぐれ)発行

発行者

編集・文責

駐吉成正士

副次本知己

来週14日は、いよいよ授業研究会ですね。保護者の方々もたくさん来て、我が子の、またたくさんの子どもたちの姿を見てくださいね!!

1年生は「人の値うち」という江口いとさんの詩で、2年生は「汚染一揆」という部落差別と闘った史実で、3年生は「一本の大根として」という中3生のこれからの進路を考える資料で学習を進めていると思いますが、よりたくさんのお話が伝わるような、みなさんの明日が拓けるような、そんな取り組みにしてみましようね!!

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

◇全学年・全体学習・揃い踏み Part3 (2年10/3, 3年10/17, 1年11/1)

《まず話すことから始めよう!》 by 次本

自分の意見や思いを、みんなの前で話せたことの喜びを感じたことはありますか? 何か恥ずかしい……とか、きちんとした意見でないから……とか、こんなこと言ったところで、きっと分かってもらえない……などといった理由で、人前で話せないことが実際のところ多いんじゃないでしょうか。

ヒトという動物は、社会や地域、学校、家庭といった群の中で生きているわけですから、自分の意志を他のヒトに伝えること、他のヒトの意志を知ることが、集団生活の上で極めて重要なこととなります。だから、自分がよりよく生き、さらに群全体がよりよい方向に進んでいくために、意志の疎通(コミュニケーション)は、絶対不可欠なのです。ヒトはあるとき話す喜びを知った。だからヒトは歴史の中で、ずっと群の中で話し合ってきた。そのことがヒトをここまで進化させ、文明を築かせてきたんじゃないかと思うんですよ。

話すことの喜びはだれでも知っています。どんなときに話すことの喜びを感じたのか思い出してみてください。そこに共通してあるのは**本気**ではないでしょうか。自分の思うことをごまかすことなく、本気で話す。そして、なかまの話を本気で聞き、問いかけに対して本気で答える。そんなやりとりが大きな喜びを生み、なかまとの連帯感を生む。このことを具体化する場の1つが、全体学習だと思うんです。

先日1年生が、「わたしの心」をいう資料で全体学習を行いました。5時間目に1年D組のみなさんが、作者の心^{しんじょう}情の変化を通して、部落問題をどう自分の問題としてとらえていくかについて活発^{かつぱつ}に意見を出し合いました。6時間目は1年全体で、10月の宿泊訓練でのキャンドルサービスのスタンツの盛り上がり^もを糸口^{いとぐち}に、今、自分の生活に納得^{なっとく}しているのか？納得していないのならどうすればいいのか話し合いました。今回の全体学習の感想を、「あゆみ」の中からいくつか紹^{しょうかい}介します。

- 今日、とってもいい勉強をしたと思います。5, 6時間目、机が重かった。しかしそんなことよりも、みんなの意見をみんなの口から聞けて、とっても楽しかったです。
- 私は、今日の全体学習は少し緊張^{きんちよう}しました。でも、1回発表ができたので、良かったです。いっぱい発表している人がいたので、スゴイなあと思いました。
- 今日、同和問題のやつで、5時間目にD組が発表したりしました。1回発表できたのが、なによりもうれしかったです。これからも、同和のことについて、しっかり考えていきたいです。
- 今日、学年集会で、部落のことについて勉強して、D組の意見を聞いていて「アレ？」って思ったこともあったし、「うん！」って思ったこともあった。今度B組もしたいナー。
- きう、全体学習がありました。D組の子の意見とわたしが思っていたことが同じところもありました。みんなの意見が聞けて良かったです。
- 今日、全体学習をしました。みんないい意見ばかりで、自分の意見を言うのを忘れてました。トホホホー。
- 今日の5時間目、私はたくさん発表しました。班^{はん}の得点にも、自分の意見を堂々と言える強い心にもなれたので良かったです。次ももっと発表したいです。

部落差別はなくななければならないとみんな思っています。でも、自分は何をすればいいのだろう？自分ひとりががんばってみて何になるんだろう？って考えている人もいます。しかし、どうのこうの言っただけで、自分が何か行動を起こせば、確実^{かくじつ}に変化は起きます。だから、まず部落問題について話すことから始めましょう！話すことの喜びに、部落差別をなくす取り組みを今、自分がやっているという喜びが重なっていくことを感じつつ。1年生の次の全体学習の報告、楽しみにしててください。

私の記憶に残る映画「学校」シリーズの案内が届きました。ぜひ観てみたいと思います。
みなさんも一緒にどうですか？



学校や家庭の管理から逃れ、
大人の価値観の厚かましい押しつけをはね返し、
中学三年の少年は旅に出る。
その主人公に寄りそい、彼の幸せを願いながら、
共に旅をするような楽しい作品にしたい。
山田 洋次



山田洋次監督作品

十五才 学校 IV

生きていくことを、誰に学びましたか。

◆解説◆

東京の夜間中学。北海道の高等養護学校。東京・下町の職業訓練校。
さまざまな「学校」を舞台に、懸命に学び、生きる人々の姿を描いて、日本中に大きな感動を巻き起こしてきた
山田洋次監督の『学校』シリーズ。

今回の物語は中学三年生の少年が主人公。舞台を教室の外に移し、少年の冒険の旅を通して、
学校や家庭を裏からあぶり出すように描きます。

それぞれが持つ人生の重さ、せつなさをかいま見ながら、自分の人生を探す旅。

そこには、彼だけの「学校」があった…。大切なことを、誰から学んだのか。

そんなことを自分自身に問いかけてみたくなる、日本映画の名作がまたひとつ誕生します。



何で学校に行かなきゃいけないんだ。明るくて、素直で、賢くて…。そんな子だけがいい子なのか？

◆物語◆

横浜郊外に住む中学三年生の川島大介(金井勇太)は、学校に行かなくなって半年たつ。
ある日彼は両親(小林稔侍・秋野暢子)に内緒で、無謀にもひとり、遠く九州・屋久島の縄文杉を目指して旅にでる。
ヒッチハイクで出会った運転手・佐々木康(赤井英和)や女性ドライバー・大庭すみれ(麻実れい)の世話になり、
トラックを乗り継ぐ大介。旅先の静岡・大阪・宮崎・鹿児島で、彼はさまざまな境遇の人にふれあう。

屋久島に渡った大介は、自分の足で険しい山道を登り、ついに縄文杉にたどり着く。

その七千年の勇姿は、彼の心に何かを語りかけてくれた。

冒険の旅も終わりに近づいた時、怪しいひとり暮らしを続ける老人・畑鉄男(丹波哲郎)に出会った大介に、
思わぬ出来事が待ち受けていた…。



◇ これからの日程 ◇ ◇ ☆ ☆ ☆ ★ ★ ★ ☆ ☆ ☆ ☆ ★ ★ ★ ☆ ☆ ★

11月10日(金)～12日(日) 板野郡秋季新人大会(郡内各会場)⇒全力を尽くそう!

14日(火) 保護者参観日(1・2年生12:50～13:40, 3年生12:50～14:40;板野中学校)⇒3年生はA組による全体学習!!

15日(水) 解放文化展PTA作品制作日(19:00～;大会議室)⇒ご協力よろしく!!

17日(金) 板野中学校PTA同和教育講演会(19:30～;大会議室)⇒みなさん来てね~!!

25日(土)～27日(月) 全国同和教育研究大会(高知市内)

30日(木)～12月2日(土) 期末テスト⇒もう2学期もあとわずか!!

12月2日(土) 解放文化展意見発表講演会(午後;文化の館さくらホール)⇒中学生のみなさんも行こう!